

2010年5月発行  
**呼人水芭蕉通信6号**  
 - 網走湖・水と緑の会 -  
 代表 清水 晶子  
 網走市呼人187-1 森の家内 (〒099-2421)  
 TEL・FAX 0152-48-2223

保全地のヤチダモ (高さ25m)



皆様がかがお過ごしでした。2000年、国道工事によりその長い一辺の水路が「暗渠」となり埋められたために、一挙に乾燥化が進んできました。暗渠の上は幅の広い舗道となり水芭蕉を見るのにはよいのですが、林床は乾燥化が進み、オニシモツケ、バイケイソウなどが繁殖しはじめ、水芭蕉を駆逐しはじめたのです。

10年前まで保全地は、長方形の3辺が流れに囲まれ、雪解け水を潤沢に吸い込み、水芭蕉以外の植物が入り込めない状況

にありました。2000年、国道工事によりその長い一辺の水路が「暗渠」となり埋められたために、一挙に乾燥化が進んできました。暗渠の上は幅の広い舗道となり水芭蕉を見るのにはよいのですが、林床は乾燥化が進み、オニシモツケ、バイケイソウなどが繁殖しはじめ、水芭蕉を駆逐しはじめたのです。

会ではなんとか従来の林床を取り戻したいと、他の流れから水を林内に引き込み、柵田方式で水を滞留させ、一昨年あたりからその効果が現れ始めたところでは、今年には雪解け時期には、林の70%ほどに水が回りました。今後の推移を見守りたいと思います。

水芭蕉の植生調査  
 保全地管理を進める上で、保全地の水芭蕉の経年変化を知ることが重要です。辻井達一先生のご指導のもと、今年には北側の側溝沿い45mを5mずつに区切り、9区画を行いました。国道に近い2区画に水芭蕉はほとんどなく、他の7区画の平均は1区画(5m×5m)あたり約60株でした。ヤチダモの大きな根株のある区画もありますから区画ごとの条件に差異があります。

水芭蕉以外の草本には、オニシモツケ、バイケイソウ、ヨブスマソウ、イラクサ、ヨモギ、オオウバユリ、サイハイラン、エゾフユノハナワラビ、エンコウソウなどがありました。来年も行います。

雨どけ水をたたえた保全地



【網走】網走市呼人 ボランティア団体、網走湖・水と緑の会(清水 晶子代表)が24日、網走湖畔のミスバシヨウ群生地を管理する。水芭蕉の植生調査と清掃を行った。保全活動の効果を確認するため、今年度は新たに植生調査を行った。網走湖・水と緑の会(清水 晶子代表)が24日、網走湖畔のミスバシヨウ群生地を管理する。水芭蕉の植生調査と清掃を行った。保全活動の効果を確認するため、今年度は新たに植生調査を行った。

植生調査でミスバシヨウの株を数える参加者

地元住民や東大網走の学生、呼人の電子部品製造会社NGKオキの社員も含め、約30人が参加。約5千平方メートルの群生地を調査し、湿り帯や枯れ枝を拾った。ミスバシヨウは、一部が既に白い仏炎苞(葉の一種)を開き、参加者は足元に注意しながら作業していた。調査は群生地の一部(225平方メートル)で行われ、ミスバシヨウの株数や大きさを迎える。(近藤 寛治)



これ何株でしょう？

ミスバシヨウ群生地を清掃  
 今年は植生も調査 水と緑の会

網走市呼人にあるミスバシヨウ群生地の保全に取り組んでいる網走湖・水と緑の会(清水晶子代表)もこの日、群生地を整備した。今年、雪解けのほかにミスバシヨウの植生も調査した。

午前8時からの清掃には同会の会員や市民ボランティアなど約30人が集まり、群生地の中に入って清掃した。植生調査は国道39号とJR石北線の間約45メートルにわたる群生地のうち、奥行き5メートルについて調べた。参加者が数人ずつの組になり、マス目に区切



つた中に生えているミスバシヨウを写真に記した。植生を調べる参加者。同会はこれまで、群生地内水を引き込むための土留めや柵田を設けてきており、植生調査でその効果を調べるという。来年は今年調べた区域のさらに奥を調査する予定で、清水会長は「群生地の7割近くが水につかり、乾燥化で増えてきたバイケイソウなどの雑草が減るのでは」と話していた。(伊藤 敏)

会員入会費 1,000円  
 年会費 1,000円  
 会員のうち本年度会費の納入を済ませたい方は、お願致します。  
 郵便振替 02730-3-20099  
 網走湖・水と緑の会